



保護と野生復帰

中国朱鷺 保护与野化放飞

Conservation and Reintroduction of Crested Ibis in China

中国においては、1930年代以降、乱獲や生息環境の悪化によりトキの個体数が著しく減少し、1964年を最後に絶滅したと考えられていました。

1981年、中国中西部の秦嶺山脈の南麓、陝西省洋県において、7羽のトキが再発見され、中国政府はトキを国家第一級の保護野生動物として、トキ営巣地の監視・保護、えさ場の確保、農薬・科学肥料の規制などが行われてきました。また、巣から落ちたヒナや負傷した個体の保護、人工飼育の取り組みも始まり、1989年北京動物園で世界で初めてトキの人工飼育に成功しています。1990年代後半には野生個体群の保護の成果が徐々に現れはじめ、近年では毎年100前後のヒナが巣立し、2007年、野生トキは500羽に達し、飼育下のトキとあわせて1,000羽を超えました。

一方、人工飼育されたトキの野生復帰に向けた取り組みも2002年、陝西省トキ救護飼養センターに大型フライングケージが設置されて本格化し、2004年には陝西省洋県の華陽で野生復帰に着手、2007年には野生個体群の生息域から少し離れた寧陝(ねいせん)県においてもトキの野生復帰に着手するなど、トキを普通の種に戻すための積極的な取り組みが進められています。



中国洋県にて 陳承彦氏 撮影

曾听说在中国由于滥捕滥杀和生存环境的恶化朱鷺已经灭绝。但是，1981年在中国中西部秦岭山脉南麓的陕西省洋县境内重新发现了7只朱鷺，中国政府将朱鷺定为国家一级野生保护动物加以保护。1989年北京动物园在世界上首次取得了人工喂养朱鷺的成功。九十年代后半期在保护野生种群方面也逐渐取得了许多成果，近年来每年有100只左右的雏鸟离巢，2007年野生朱鷺已达到500只，加上人工饲养的朱鷺，在中国国内的朱鷺数量已超过1000只。另一方面，在将人工饲养的朱鷺野化放飞方面也进行着不懈的努力，2002年在陕西省朱鷺救护饲养中心修建了大型放飞大棚，正在为朱鷺的野化放飞进行着积极的努力。

The Crested Ibis was believed to be extinct in China due to over hunting and environmental pollution. However, in 1981, seven Crested Ibises were found in Shaanxi province mid-west of China. Since then, the government of china protected the Crested Ibis as one of their most important wild animals. In the late 1990s the wild population of the Crested Ibis began to increase because of the outcome of the conservation activities. Around one hundred of juvenile have left nest. The number of the Crested Ibis increased to 1000 which include both in the wild and in captivity.

日本において、トキは江戸時代にはありふれた鳥でしたが、乱獲によって大正末期に絶滅したと言われるほど激減し、1934年(昭和9年)には早くも天然記念物に指定されました。わずかに残ったトキは、佐渡島や能登の地域住民などによって地道な保護活動が続けられましたが個体数は減少の一途をたどり、1981年(昭和56年)には最後に残っていた野生のトキ5羽の一斉捕獲が実施され、人工繁殖の本格的な取り組みが始まりました。その後、20年余りにわたり、中国との繁殖協力を軸に人工繁殖への関係者の不断の努力が続けられましたが、2003年(平成15年)日本生まれとしては最後の野生のトキ「キン」が死亡しました。

人工繁殖の努力が続けられる中、1999年(平成11年)中国よりトキのペア「友友(ヨウヨウ)、洋洋(ヤンヤン)」が贈呈され、同年、日本で初めて人工繁殖に成功し「優優(ゆうゆう)」が誕生しました。翌年、さらに中国よりトキの「美美(メイメイ)」が供与され、これらの個体からトキの増殖が進み、2007年(平成19年)10月末現在106羽となりました。

2000年からトキの人工繁殖が軌道に乗りつつあったことから、野生トキの一斉捕獲以来の夢であるトキの野生復帰に向け、環境省をはじめ関係者と連携して、トキと共生できる地域社会作りが本格的にはじまりました。2003年に「環境再生ビジョン」をまとめて以来、これを原点として、それぞれの立場で生息環境整備などトキの野生復帰に向けた取り組みが進められています。2007年より、トキの野生復帰に向けた訓練施設である野生復帰ステーションにおいて、トキの訓練がはじまり、2008年の放鳥を目指しています。

日本在大正末期由于滥捕滥杀朱鷺的数量急剧减少，因此早在1934年朱鷺就被指定为天然纪念物。虽然佐渡岛和能登当地居民等一直勤勤恳恳地开展着保护活动，但是仅存的朱鷺数量继续减少，1981年对最后仅存约5只野生朱鷺进行了集体捕获，正式开始了人工繁殖方面的努力。在进行不懈努力的过程中，1999年中国赠送了一对朱鷺“友友”和“洋洋”。同年，日本首次成功人工繁殖的雏鸟“优优”诞生了。第二年，中国又提供了一只朱鷺“美美”，这些个体促进了朱鷺的繁殖，到2007年10月末为止已经达到了106只。

另外，2007年在朱鷺的野化放飞训练基地——野化放飞站开始了朱鷺的野化放飞训练，预定2008年进行放飞。



In Japan, the number of Crested Ibis dramatically decreased during the end of Taisho-era. In 1934 the Crested Ibis was identified as a national natural treasure. Although local people, for example in Sado Island and Noto peninsula, tried to protect Crested Ibis, the number continuously declined. In 1999, one pair of Crested Ibis, You-You and Yan-Yan were given by China, and Yu-Yu was born in Japan thanks to the pair. Me-Me also came as a gift from China in 2000. The population of Crested Ibis in Japan increased to 106 by 2007. This year, five Crested Ibises were released to acclimatization facility in Sado Island and government of Japan plans to reintroduce the Crested Ibises by 2008.

保護と野生復帰

日本朱鷺 保护与野化放飞

Conservation and Reintroduction of Crested Ibis in Japan

